

保護者の皆さまのご協力も大切です

子供たちの学習を補助 – 数える

子供たちが初めて接する数の体験の一つに「数える」ことが挙げられます。数えることは、ちょうど童謡と同じように、言葉のパターンを覚えることから始まります。数える力がついてくると、子供たちはそれぞれの言葉と物の数量または個数とを関連づけ始めるのです。

子供たちは、数の数え方や使い方をどのようにして学ぶのでしょうか？

子供たちは、繰り返しによって数えることばのパターンを学びます。しかし最初は数字をいくつか抜かしてしまったり、あるいは数字を勝手に作り上げたりする場合もあるでしょう。例えば29まで数えた後、「トゥエンティ・テン」と言うのはよくあることです。

しかしながら、各数字の読み方を正しい順序で覚えることは、数えるという過程の一部に過ぎません。正しく「数える」ためには、対象となる「もの」の数と口に出して言う数字が一致していなければなりません。

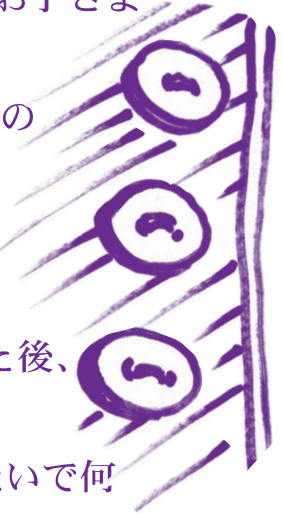
子供たちは数を集めるだけでなく、その数え方を試す機会をたくさん与えられなければなりません。また数を正しく認識して、その名前を言えるようになることも大切です。



保護者の皆さまのご協力も大切です

家庭ではこういったお手伝いができるでしょう？

- カーディガンやシャツのボタンをかける時、お子さまと一緒にボタンの数を数えましょう。
- 洗濯物を干す際、使用されている洗濯バサミの数を数えさせましょう。
- 玄関から郵便受けまで何歩あるか一緒に数えてみましょう。
- ケースの中の卵を数え、いくつか取り出した後、もう一度数え直しましょう。
- お子さまと一緒にボールを投げ合い、落とさないで何回投げられるか数えてみましょう。
- 物語中に数が用いられているお話や韻文を読んだり、またそれらについて話し合ってみましょう。
- 「ファイブ・リトル・ダックス」や「メェー、メェー、黒羊さん」など、数を含む歌や童謡を歌いましょう。
- お子さまに一人で数えられるところまで数えさせ、その後保護者の方が引き続き数える一方で、お子さまも一緒に数えてみるよう励ましてあげましょう。
- 1以外の数から数え始めさせましょう。こうすることによって、2種類の数字を足し合わせる際、大きな数の方から数え始められるようになります。
- 特定の数字から一つ前または一つ後の数を尋ねてみましょう。例えば、「来年は何歳になるの？」「去年は何歳だった？」。
- 食事の支度をする時、テーブルに人数分のお皿やカップ、ナイフやフォーク、スプーンなどを運ぶように頼みます。
- 「ドミノ」や「へびとはしご」、トランプ、さいころを用いたボードゲームなどを一緒に楽しみましょう。これらのゲームは、パターンや数の認識に役立ちます。できれば、お子さまが数字を読み、認識するのに役立つように、点ではなく数字のついたさいころに変えてみましょう。



保護者の皆さまのご協力も大切です



- 貝殻を集めて分類してみましょう。それぞれのグループにいくつずつあるか数えさせてください。
- 車のナンバープレートや道路標識の数字を読ませてみましょう。
- パイやキシュ、果物やサンドイッチを小さく切る時、その数を数えるのをお子さまに手伝わせ、いくつあるか尋ねましょう。
- 空箱で農場を作りましょう。おもちゃの動物をお子さまと一緒に並べて数えてみます。次のような質問をしてみましょう：「どの農場に一番たくさん動物がいる？」いくつか動物を並べた後に一度止めて数え、以後、動物を加えるごとに数え直します。
- 電話番号を覚え、電話で正しいボタンを押せるよう手伝ってあげましょう。